

【財務省政策評価懇談会における意見（全体に通じるもの）】

- 今回の評価については、全体に異論はない。
- コロナ禍から回復するに伴い、このように確実に評価が上がる取組が行われていることは、極めて即応しているということであり、国税庁の取組に大変敬意を深めている。
- 評価が上がったのは、コロナ禍が去ったからということだけではなく、新しい取組をはじめ、検討し、課題があっても乗り越えて進めているということが非常に大きい。
- 今年の評価が昨年よりもかなり良くなっていることは大変喜ばしい。評価が向上するような努力を現場で続けられているものと理解している。
- 国税庁の実績評価については、一旦悪化していた取組がコロナの収束とともにほぼ戻っており、DXについても非常に熱心に取り組んでいる。[再掲：実績目標（小）1-2 税務行政のデジタル・トランスフォーメーション]
- 国税庁の人材確保は非常に重要である。国税庁に入ることが、日本の屋台骨を支えるのだという意識を作り、良い人材の確保ができるように、継続的な働きかけを行ってほしい。
- 歳出歳入改革の中で、税は歳入の重要なところなので、ぜひ国税庁の一人一人が日本の財政収入の確保のために、引き続き頑張ってもらいたい。